

# 2019年3月期 第1四半期 決算の概要

2018年8月1日  
日本ユニシス株式会社

Foresight in sight

## アウトソーシング、システムサービスが牽引し増収 販管費の増加はあるも、営業利益は微増

(単位：億円)

	第1四半期(4-6月)		前年同期比 増減	
	2019/3期	2018/3期		
売上高	570	561	+9	+1.6%
売上総利益	140	138	+2	+1.7%
販管費	▲125	▲123	▲2	▲1.7%
営業利益	15	14	+0	+2.2%
(営業利益率)	(2.6%)	(2.6%)		(+0.02pt)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	14	13	+1	+5.1%
受注高	607	575	+32	+5.5%
受注残高	2,244	2,121	+123	+5.8%

### <1Q決算のポイント>

- **売上高**  
アウトソーシング、システムサービスが牽引し増収。
- **営業利益**  
サービスの増収効果と収益性改善で製品販売の減益をカバー。売上総利益が前年同期比増加するも、販管費の増加により、営業利益は微増にとどまる。
- **親会社株主に帰属する四半期純利益**  
税負担の減少もあり若干増益。
- **受注高・受注残高**  
受注高はシステムサービスを中心に増加。受注増に伴い、受注残高も増加。

【ご参考】 1Q(4-6月)の売上高、営業利益、純利益の5カ年推移 (単位：億円)



向井でございます。

これより、2019年3月期第1四半期の決算概要について、ご説明申し上げます。  
資料の1ページをご覧ください。

第1四半期の業績は、売上高は前年同期比+9億円増収の570億円、  
営業利益は前年同期比微増の15億円、  
四半期純利益は前年同期比若干増の14億円となりました。

売上高は、アウトソーシングおよびシステムサービスが伸長し前年同期比+9億円の増収となりました。

利益面では、前年同期に採算の良いソフトウェア販売案件の計上があったものの、アウトソーシングやシステムサービスなどの増収に伴い、売上総利益は+2億円の増益となりました。

一方で、新規事業開発に係る研究開発費などで販管費が▲2億円増加したことから、営業利益は微増にとどまりました。

なお、四半期純利益は税負担の減少もあり、若干の増益となっております。

次に受注高ですが、システムサービスを中心に増加しており、前年同期比+32億円増加の607億円となりました。

受注残高につきましても、昨年度に長期アウトソーシング案件を複数受注したことに加え、システムサービスの受注が積み上がったことから、前年同期比+123億円増加の2,244億円となっております。

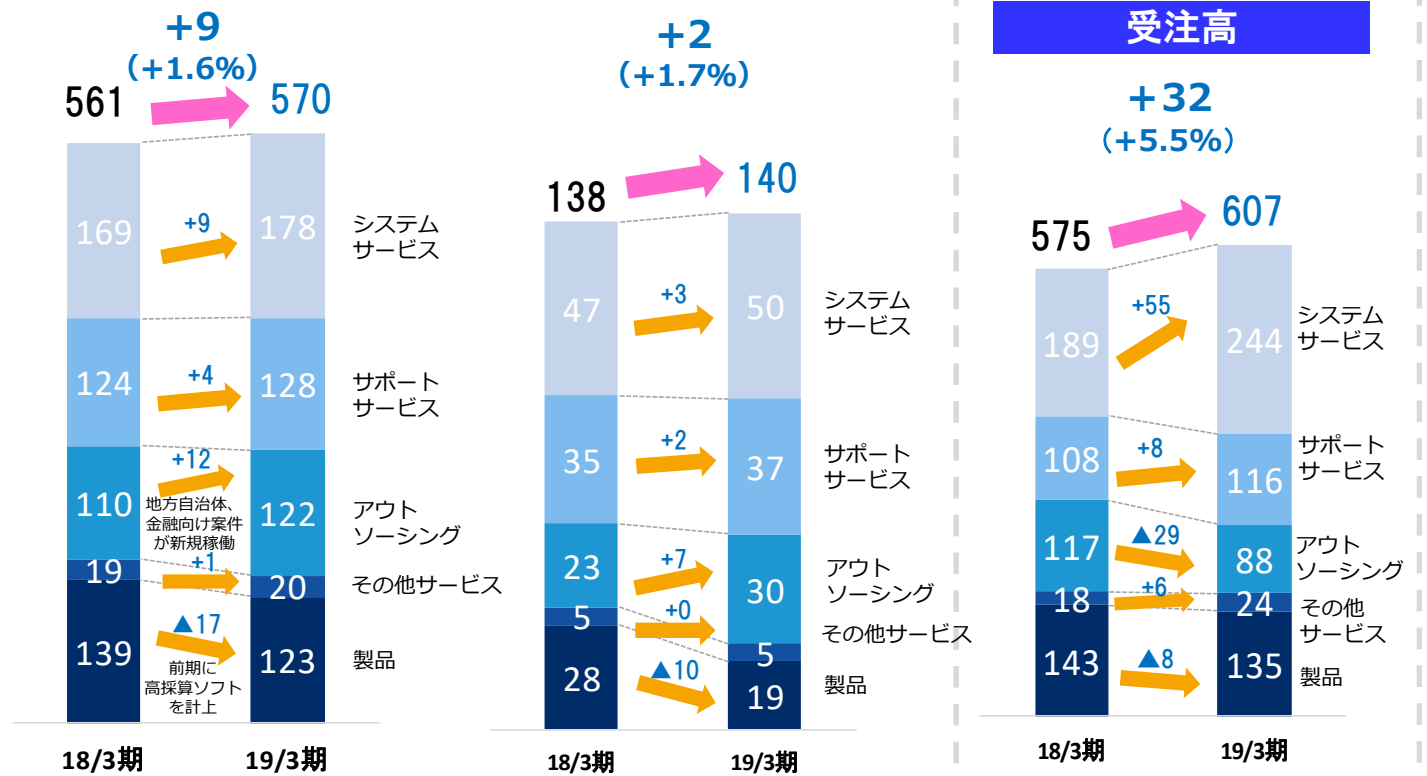
(単位：億円)

## 売上高

## 売上総利益

【ご参考】

## 受注高



続きまして、セグメント別の状況について説明いたします。資料の2ページをご覧ください。

システムサービスは、金融機関向けなどを中心に中小型の案件の積み上げで、増収・増益となっております。

なお、当第1四半期においても不採算案件の発生はございません。

サポートサービスは、幅広い業種向けに小口の契約が積み上がったことから増収となりました。引き続き外注費などの削減にも取り組んでいることから、売上総利益も増益となっております。

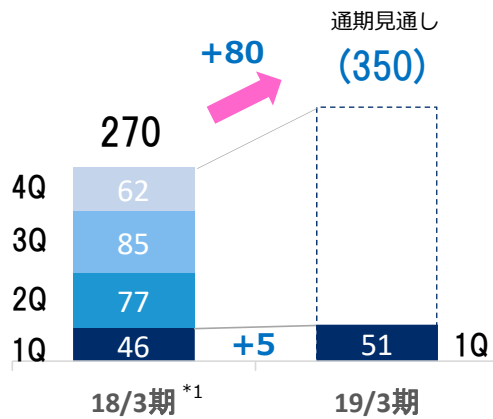
アウトソーシングは、今年4月から地方自治体向けに新規サービスを開始したほか、今年1月から信用金庫向け勘定系システムが稼働していることなどもあり、増収・増益となりました。

前年同期において発生していた先行費用の負担がなくなったことに加え、運用効率の改善効果などから、売上総利益は堅調に増加しています。

製品は、前年同期に利益率の高い金融機関向けソフトウェア案件の計上があった影響から、減収・減益となっております。

(単位：億円)

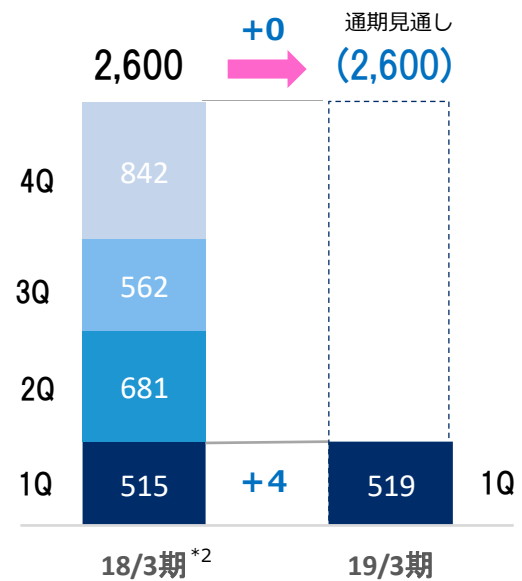
## 注力領域



- ・電子決済サービスの決済種類や加盟店の増加
- ・モビリティサービスプラットフォーム (smart oasis®) におけるサービス提供先の増加
- ・デジタルトランスフォーメーション関連案件の増加

\*1 18/3期は前中期経営計画での「デジタルイノベーション」「ライフイノベーション」売上高の合計

## ICTコア領域



- ・BankVision®11行目開発継続中
- ・金融機関向けシステム開発堅調
- ・地方自治体向けアウトソーシング新規開始

\*2 18/3期は前中期経営計画での「ビジネスICTプラットフォーム」売上高

続きまして、当期より開始した3カ年の中期経営計画における注力領域のビジネス状況をご説明いたします。

資料の3ページをご覧ください。

当社は、注力領域として4つの領域「ネオバンク」「デジタルアクセラレーション」「スマートタウン」「アセットガーディアン」を定めています。

当第1四半期における注力領域全体での売上高は51億円となり、前中期経営計画で取り組んでいた「デジタルイノベーション」「ライフイノベーション」領域売上高との比較では+5億円の増収となりました。

手数料型のビジネスについては前年同期並みで推移していますが、AIやIoT、RPAなどのデジタル・トランスフォーメーション関連案件が増加していることから、注力領域の売上高が増加している状況です。

なお、注力領域の通期売上高見通しは、前期比+80億円増収の350億円を計画しています。

上期の売上高、営業利益、四半期純利益の予想は  
公表値（5月9日）から変更なし

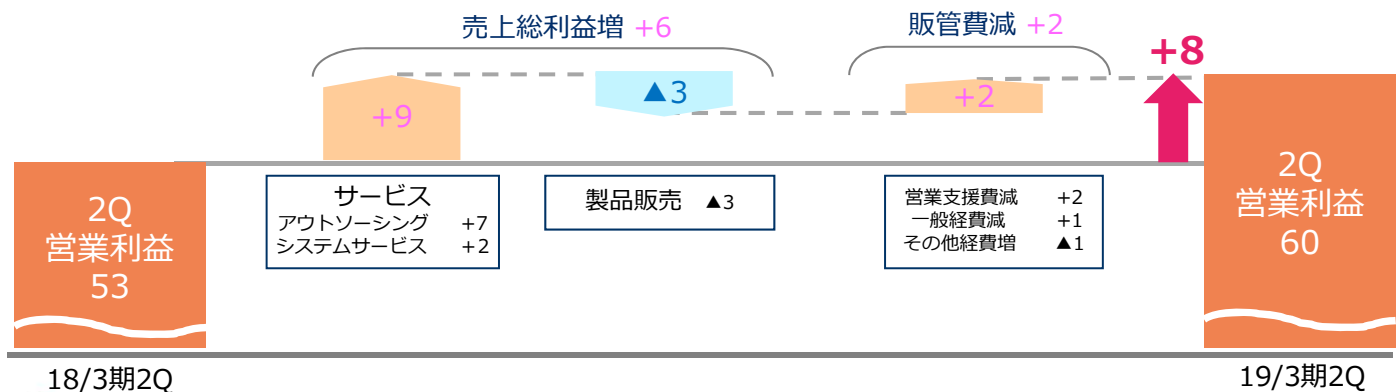
(単位：億円)

	19/3月期 1Q実績		19/3月期 2Q予想		19/3月期 上期予想	
	金額	前年同期比	金額	前年同期比	金額	前年同期比
売上高	570	+9	760	+2	1,330	+11
営業利益	15	+0	60	+8	75	+8
親会社株主に帰属する 四半期純利益	14	+1	38	+4	52	+5

\* 上期予想の内訳は補足資料をご覧ください。

(単位：億円、増減は前年同期比)

## 【2Q(7-9月) 営業利益の増減分解】



業績予想についてご説明いたします。  
資料の4ページをご覧ください。

上期の売上高、営業利益、四半期純利益予想については、5月9日の公表値から  
変更ございません。

第2四半期については、売上総利益はアウトソーシング及びシステムサービスを中心に  
+6億円の増益、販管費は営業支援費および一般経費の減少などにより+2億円の改善を  
見込んでいることから、営業利益は前年同期比+8億円の増益を計画しております。  
なお、特段の懸念案件がないことから、第2四半期においては不採算リスクは見込んで  
おりません。

以上をもちまして、2019年3月期第1四半期 決算概要の説明を終了いたします。

# Foresight in sight

**UNISYS**

**(注意)**

本資料における将来予想に関する記述は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づいております。実際の結果は、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予想と異なる可能性があり、当社グループとして、その確実性を保証するものではありません。

また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。

本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。